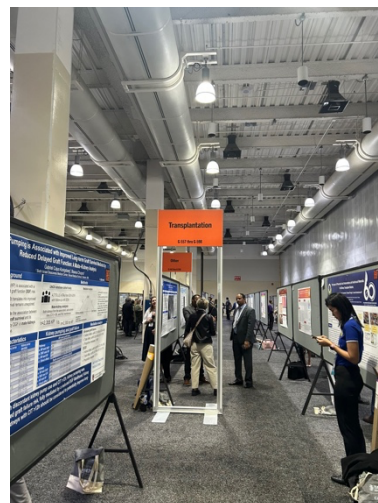
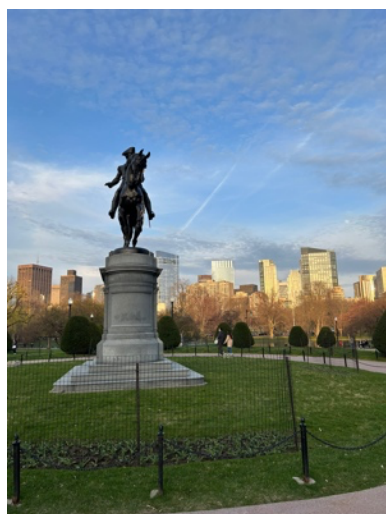




ボストンでのアメリカ腎臓学会への参加・発表に併せて、**Havard Medical School** でのミーティングに行って参りました。ボストンでの生活は **2003 年** から **20 年** 以上に渡ります。**2008 年** に **Faculty** になって以来、**2019 年** には勤務していた **Brigham and Women's Hospital / Haravrd Medical School** での **10 年** 勤続での表彰もあり、自分にとって第二の故郷かもしれません。

発表内容は『移植医療における樹状細胞の重要性と治療対象としての可能性に関するイメージング手法での解析』になります。これまで誌上での疑問、概念が論じられていた免疫学的な疑問や内容が、イメージングを用いる事で直視化出来る事は新たな発見や着想に繋がる革新的な研究です。



会場ではブリガム時代の **Fellow** でもあった **Dr. Murakami** (**WashU Medicine**. : 年間 **300 件** の腎臓移植を行なっている全米でも有数の **High volume center** で勤務中) とともに近況のアップデートや術後管理の違いなどを聞かせてもらいました。

クリニックご利用頂いている患者さんに少しでも安心頂ける医療提供をする為に、これからも腎臓や急性期医療における世界的なアップデートをブラッシュアップしていきます。